

最近のできごと

2/25 母校の子どもたちのために

子どもたちがたくさんの本に出会うきっかけになればと、北島芳雄さん（三ヶ野山）が、母校の栗須小学校と野尻中学校に、図書購入費を寄付されました。

栗須小学校では、北島さんからの寄付で、「北島文庫」を創設しました。本が増えて、子どもたちはとても喜んでいるそうです。



2/26 立志の誓い

これまでの学校生活を振り返り、最上級生としての自覚をもって進級を迎えられるよう、野尻町区域の小中学校で立志式が行われました。

栗須小学校では、5年生23名が、保護者へこれまで育ててくれたことへの感謝を伝えた後、ひとりひとりが「立志の誓い」を発表し、最上級生になる決意を心に刻んでいました。



3/1 ボランティア感謝集会

日頃お世話になっているボランティアの方々に感謝を伝えようと、野尻小学校でボランティア感謝集会が開催されました。

東麓新地馬場棒踊り保存会、見守り隊、読み聞かせサークルたんぼぼ、学習支援ボランティアの代表者に、児童を代表して上田彩絢さん（6年生）が感謝の気持ちを伝えました。



3/1 県教育長表彰

長年にわたり、野尻小学校で「棒踊り」の指導を続けてきた「東麓新地馬場棒踊り保存会」が、県教育長から表彰されました。

野尻小学校で行われた授賞式で、会長の平原國昭さん（写真右）は「これからも、歴史を作っているという誇りを持って、活動を続けたいです。」と話していました。



指先を使って脳を活性化

2月の生きがい学級では、新聞紙を使ったちぎり絵講座が開催されました。

講師の永田タエ子さんによると、指先にはたくさんの神経が集まっており、指先を使うことで脳の働きが活性化されるそうです。

受講生は、細かい作業に最初は苦勞したもの、鮮やかな作品を作り上げていました。



3/3 楽しいひなまつり

野尻町区域の保育園等で、ひなまつり会を行いました。

紙屋保育園では、紙芝居でひなまつりを学んだ後、女の子によるファッションショーが開催されました。途中でファッションに自信のある男の子も飛び入り参加し、華やかでにぎやかな楽しいひなまつりになりました。



広報紙の伝えてきたこと

「町報のじり」の第1号が発行されたのは、昭和47年5月のことでした。それから約半世紀。これまで「広報紙が何を伝えてきたか」を振り返ります。

町報のじり 第1号



町報が初めて発信した情報は「新庁舎の建設」と「区長の選任」でした。当時は12区に分かれていましたが、昭和59年4月の行政区再編で、現行の6区になりました。職員が手書きしたらしい新庁舎の完成予定図をはじめ、初期の町報は、味のあるイラストが紙面を飾っています。

農業（牛）



「全国和牛能力共進会」に野尻町の牛が初めて出品されたのは第4回大会（昭和57年度）のことです。この時は見事「農林大臣賞」を受賞しました。これ以外にも、多くの農業賞の受賞を伝えてきました。また、生産者は少なくなりましたが、乳牛もしばしば紙面に登場しています。

萩の茶屋



花の名所・萩の茶屋は、季節の花が咲き誇るたびに、文字どおり紙面に花を添えてきました。土砂崩れで甚大な被害を受けたこともありましたが見事復活し、沿道を通る人々を楽しませています。現在は、町の宝を大切にしたいという地元企業が、大切に管理されています。

通信技術



地域集団自動電話から黒電話へ、携帯電話の登場、光ケーブル通信網の整備と、通信技術が進化していく様子わかります。テレフォンサービスによる町の行事等の発信やホームページの登場など、通信技術の変遷は、情報の発信方法にも変化を及ぼしました。

交通安全



過去に「交通事故当事者ワースト1位」（県内）という記録を作るなど、野尻町内では交通事故が多発しており、町民大会や講習会の開催など、町民一丸と汚名返上に努めてきました。毎月の発生状況をはじめ、広報紙でもたびたび啓発記事を掲載しています。

特産品（メロン）



広報紙では、生産数の増加や販路拡大等、メロン栽培への期待が自信に変わっていく様子を伝えてきました。写真に注目すると、時代とともにメロンの品種も変化していることがわかります。メロン栽培への情熱は、マンゴー栽培へとつながっていきます。

スポーツ



スポーツの盛んな町らしく、オリンピックのメダリストやプロ野球選手の輩出をはじめ、広報紙では多種多様なスポーツの話題を届けてきました。合併までに34回開催されたロードレース大会は、町内外から多くの個人・団体が参加する大会でした。

町報のじり 最終号



町報の最終号では、通常の話題に加えて、「野尻町の歴史の振り返り」と「合併後の変更事項」について発信しました。まちの情報を伝えるという役割は、「のじり庁舎だより」へと引き継がれています。

自然災害への備え



台風等で町内でも土砂災害が発生し、被害の状況と復旧の様子を伝えると同時に、災害への備えと早めの避難を呼びかけてきました。平成11年9月号の災害特集記事では、平成5年の災害を経験された方の体験談が掲載されており、備えと迅速な避難の大切さを伝えています。

のじり湖祭



第1回は7月27日に開催予定でしたが、台風のため延期になり、8月4日に開催されました。平成8年10月号、平成21年9月号では特集記事を掲載し、「野尻町の知名度を上げたい」という若者の熱意が脈々と受け継がれていく様子がわかります。

文化・芸術



児童生徒の作品や野尻町総合文化祭、著名な芸術賞の受賞など、文化・芸術活動も盛んに行われてきました。「野尻狂句会（後に「野尻郷句会」へ改名）」による「ひねっみろかい」は、昭和60年3月から平成18年12月までの長きにわたり、楽しい投稿が続けていました。

「町報のじり」・「のじり庁舎だより」は、小林市立図書館（本館・各分館）で閲覧できます。過去の広報紙をひも解けば、懐かし出来事や、身近な人のありし日の姿、懐かしいあの人の笑顔に出会える…かもしれません。※縮小版もあります。

3/9 地婦連合同奉仕作業

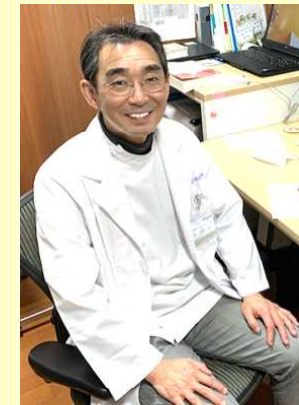
「まちの顔」である駅を綺麗にしようと、小林市地域婦人連絡協議会野尻支部が、小林支部と合同で小林駅周辺の清掃活動を行いました。



野尻町区域に新しいお医者さんが赴任されました！

野尻中央病院 立花 一志 先生
診療科 整形外科・リウマチ科
リハビリテーション科

診察日		月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	●	●	●	
午後	●	●				●	



<先生からのコメント>
整形外科の立花と申します。腰や膝の疼痛でお悩みの方へのサポート、リハビリによる体調の改善、骨粗鬆症治療などにより、地域の皆様のお役に立てればと思っています。

何でもご相談ください。どうぞよろしくお願いいたします。

おしらせ

3月31日付けで、6名の野尻町役場出身者が退職しました。

- 野崎 裕四 (野尻総合支所長)
 - 漆野 照久 (野尻庁舎 地域振興課長)
 - 川良 貴久 (野尻庁舎 地域整備課長)
 - 岩松 祥子 (紙屋保育園 園長)
 - 車地 ひとみ (栗須保育園 園長)
 - 横山 奈智子 (栗須保育園 保育士)
- 長い間、お疲れ様でした。

春の全国交通安全運動

4月6日（火曜）～4月15日（木曜）

4月10日（土曜）は

「交通事故死ゼロを目指す日」です。

「のじり庁舎だより」の発行は今月号で終了します。今後は、「広報こぼやし」の中で、小林地区・須木地区の方々にも野尻町区域の情報を発信していきます。野尻地区の取材等は、野尻庁舎地域振興課が行いますので、これからもご協力お願いいたします。長年のご愛読ありがとうございました。

4月 イベント・行事 & ごみの収集

※行事・イベントは中止・変更になる場合があります。
※最新の情報は市のホームページ等でご確認ください。

日(全区) 月(1~3区) 火(4~6区) 水(全区) 木(1~3区) 金(4~6区) 土

4/13~16・4/20に狂犬病予防注射を実施します。 詳細は「3月15日号おしらせ」の折り込みチラシ及び登録済のご家庭に郵送される案内をご覧ください。				01	02	03 入園進級式 (紙屋保育園) (栗須保育園) 入園式 (大塚原認定こども園)
04	05 入園進級式 (野尻保育園) 始園式 (野尻幼稚園)	06 進級入園式 (野尻幼稚園)	07 始業式 (各小中学校)	08 中学校入学式	09 小学校入学式	10
	生ごみ/燃やす	生ごみ/燃やす	廃プラ	生ごみ/紙類	生ごみ/紙類	
11	12	13 狂犬病予防注射 (~16日)	14	15	16 誕生会 (栗須保育園)	17
	燃やす/燃やさない/生ごみ	燃やす/燃やさない/生ごみ	廃プラ	生ごみ/紙類	生ごみ/紙類	
18	19	20 狂犬病予防注射	21 誕生会 (紙屋保育園)	22 誕生会 (野尻幼稚園)	23 誕生会 (野尻保育園)	24
リサイクルの日	生ごみ/燃やす	生ごみ/燃やす	廃プラ	生ごみ/紙類	生ごみ/紙類	
25	26	27	28	29 昭和の日	30	
	生ごみ/燃やす	生ごみ/燃やす	廃プラ	生ごみ	生ごみ/紙類	



のじり版 協力隊通信

現在、教育現場でのSDGsの取り組みについて勉強しています。

SDGsは2015年に国連で採択され、世界全体で2030年までに「持続可能な社会」を達成することを目指しています。

今、私たちが直面している環境問題など様々な課題を解決するため、政府、企業、地域や個人がともに力を合わせ、世界各地でさまざまな取り組みがなされています。

一方で、今の社会が利潤を追求することを全く止めずに、環境も守りましょう、というのは都合の良いものではないかという考えもあります。

大阪市立大の准教授齋藤幸平さんはただエコバッグを買ったり、プラスチックのフォークやスプーンを使わないようにするだけで、本当に地球環境がよくなるのか。むしろ、SDGsは根本的な問題から目を逸らし、唱えれば気持ちが良い「アヘン」のようなものではないかと指摘されています。

私は大きく「地球をよくしていこう」という全体の流れには賛成ですが、齋藤さんの仰るように「根本的な問題の原因」を追求せずして、ただSDGsの皮をかぶるという風潮には反対です。子どもたちとの対話学習を通して、自分は協力隊としてどのような立場を選択して何を伝えられるのかを今一度、考えていきたいと思っています。

(地域おこし協力隊 福森勇次)



庁舎だより 4月号 No.132

編集発行 小林市野尻庁舎地域振興課 〒886-0292 小林市野尻町東麓1183-2 TEL 0984-44-1100 FAX 0984-44-0649

E-mail n_sinkou@city.kobayashi.lg.jp ホームページ <http://www.city.kobayashi.lg.jp>